

令和7年度 9月の補導活動

佐久市少年センター

1 街頭補導実施回数	13回
2 延べ従事補導委員数	52人
3 相談件数	0件
4 補導した少年数	0人
5 声かけ人数	248人



9月の活動日誌から

9月1日（月）

5班 (K・T) 記

巡回経路 大型スーパー → 近津南公園 → ねむのき公園 → ゆりのき公園
→ 市民交流ひろば → 大型スーパー(フードコート・ゲームコーナー)

活動のようす

9月を迎えるも、残暑はしばらく続きそうで、本日の街頭補導活動も主に佐久平駅周辺の公園を巡回しました。まず、近津南公園に到着すると、小学1年生と4年生の兄弟2組に話しかけました。元気に返答があり、とても良い子たちでしたが、ふと足元を見渡すと公園のいたる所にアメシロの幼虫が大量発生していました。ねむのき公園とゆりのき公園には、誰もいませんでした。市民交流ひろばは、設置されている遊具が子どもたちに大人気のようでした。近くには女性が数名おり、座談を楽しそうにしていました。子どもが同じ小学校に通う保護者の方々でした。その後、大型スーパーに戻り、フードコートとゲームコーナーを見渡すと、大勢が利用していました。外はとても暑いので涼んでいる生徒らで埋め尽くされていました。少しばかり涼を感じて、本日の巡回は終了しました。みなさまお疲れさまでした。

9月2日（火） 学校訪問（佐久長聖中学校）

2班 (A・N) 記

概要

「佐久市少年センター学校訪問」で佐久長聖中学校へ専門補導委員3名と補導委員3名で伺いました。玄関で校長先生に出迎えていただき、応接室で教頭先生、生徒指導の先生2名と意見交換を行いました。先に街頭補導について専門補導委員が説明し、自己紹介後、先生から同校の概要や生徒のようすなどをお聞きしました。同校の目指すところは「将来にわたって社会の課題を解決し、新たな価値を創出する社会の創り手を育成する」という一般社会の組織と同じ様な目標がありました。その目標に向かって生徒の自主性を重んじ、生徒のチャレンジや多様な個性を育むための指導をする。そのために生徒指導のマニ



ユアルがない、そして校内ではチャイムを鳴らさない。また、生徒の寮でもタイムスケジュールはあるが、他は学校生活とほぼ同様にしているとのこと。生徒の年代はいろいろなことに興味を持つので、教師はそれにそって困難に遭遇した時点で相談に応じることでした。私たちから同校で何か問題はありましたかの質問には、あまり事例がないようでした。また補導委員から見た生徒のようすについては「あいさつをする・落ちついている」との意見が多数でした。同校について、あまりにも良いことが強調されましたが、地域を代表する教育機関であり、今後も研鑽され邁進していただきたいと思います。

9月4日（木） 学校訪問（中込中学校）

14班（T・K）記

概要

学校長、教頭、生徒指導主任に参加いただき、校長室にて開催した。生徒数364名で、構成は3学年×4クラスのこと。同校の学校教育目標「自ら学び 自らひらく」のもと、先生方の取り組みや生徒の皆さんのがんばりを紹介していただいた。大きな問題はなく、学習や年間行事が進められており、授業に支障をきたすこともないようである。部活動においても県大会に進んでいる部もあるとのことだった。今の在校生はおとなしめで、受動的な面が感じられるが、もう少し元気で能動的な面を期待したいとのこと。生徒の皆さんが小学生時代にコロナ禍を経験したことによる対人関係の希薄さが影響していることが考えられるとの考察だった。少なからず不登校生がいることや親との対応に時間を要する場合があることをお聞きし、ご苦労されているようすがうかがえた。先生方も親も目指すことは同じはずだが、考える方向性が違う場合には対応が大変そうに思えた。スマートフォンやネットを使用する時間の長さなどは、現代特有の問題と考えられるので、単なる規制ではなく、有効な利用方法を家庭・学校・地域で考える必要があるかもしれない。

9月5日（金）

6班（H・S）記

巡回経路

浅間会館 → 高瀬児童館

→ 大型スーパー（フードコート・ゲームコーナー）

活動のようす



昨日からの雨も上がり、青空ののぞく過ごしやすい午後となりました。高瀬児童館は、60人ほどの利用者がありました。子どもたちは、久しぶりにエアコンの必要がない館内で、バドミントンやゲーム、学習と、楽しそうに過ごしていました。子どもたちの姿から、児童館が健全な遊びや交流の場として、有意義に活用されているようすをうかがうことができました。大型スーパーのフードコートを訪れると、多くの高校生がテキストやノートを広げ、熱心に勉強に取り組んだり、友人ともにこやかに会話をしたりする姿が見られました。こうしたスペースが、地域の若者にとって身近な学習や会話の拠点となっていると感じました。今回の活動を通じて、児童館は子どもたちの健全な遊びの場として、また、大型商業施設のフードコートは若者の集いの場として、それぞれの役割を果たしていることが改めて確認されました。

9月8日（月）

16班 (D・Y) 記

巡回経路

あいとぴあ → コンビニ → 龍岡城駅 → 田口児童館
→ 青沼児童館 → 下越公園 → あいとぴあ

活動のようす

今日の巡回活動では、中学生の姿はほとんど見かけませんでした。コンビニの近くで、二名の女子高生が仲良く手をつないで駅の方へ歩いていました。私は、そのようすを見て「青春だなあ。成人しても仲良くしていてほしい」と思いました。田口児童館では30人ほどの子どもが、宿題をしたり、本を読んだりして時間を過ごしていました。午後7時ころに子どもを迎える保護者もいるようで、保護者の皆さんも大変だなと思いました。青沼児童館では、20人ほどの子どもたちが思い思いに時間を過ごしていました。一人の子に声かけをしたら、その子はさやか星小学校の児童で「今日は『さやか星の子』は8人来ているけど、多いときには20人くらいいるよ」と話してくれました。市外に住む子どもでも児童館を利用でき、とても良いことだと思いましたが、お迎えが遅くなることもあるようで、保護者の皆さんには大変だなと思いました。下越公園には誰もいませんでした。2つの児童館とも、冷房が入っているのは一部屋だけで、子どもたちは冷房のある部屋に集まりがちとのことでした。全館冷房にしてほしいと願います。

9月9日（火）

11班 (Y・T) 記

巡回経路

生涯学習センター → 野沢多目的広場 → 城山公園 → 野沢児童館

活動のようす

生涯学習センターには、多くの人がおり、数えたら1階に19名・2階に15名いました。1階のキッズコーナーには、小学生が楽しそうに読書したり、寝転がったりして楽しそうに過ごしていました。2階の学習室では、様々な年齢の方が静かに勉強していましたので、中に入らず、ガラス越しにようすを確認しました。学習室前のテーブルに2名の児童がゲームをやっていたので、声かけをし、早めの帰宅と交通事故に気を付けるよう話してその場を離れました。野沢多目的広場には、屋内外合わせて28名が利用していました。屋外にいた女子児童に声かけをすると、手押しポンプで水を流すの得意げに見せてくれました。城山公園には、放課後デイサービスの職員とその利用者の児童12名があり、ボール遊びなどをして楽しそうに遊んでいました。このほかに5名の児童があり、うち3名は、東屋でゲームをやっていました。ゲームの使用時間などの親との約束を守っていると答えてくれました。また、自分の得意なことは何かと聞くと、一人は「理科」、一人は「算数」と答えましたが、もう一人は「何もない」とのことでした。ところが「体幹が強いよ」との友だちの言葉に「あ、そうだ体育」と大きな声で話してくれました。「得意なことを伸ばすよう頑張ってね」というと「ありがとうございます」と笑顔で答えてくれました。野沢児童館には、約90人が利用しており、入口にいた児童に声かけをしました。今日、声かけをした子どもは、みんなよい子でした。

9月11日（木）

学校訪問（望月中学校）

19班 (K・M) 記

概要

9月に入り朝夕は涼しくなりましたが、日中は残暑というより真夏のような暑さが続いています。ですが、活動日は決まって雨が降りだしそうな天気が多いような気がします。

今日は、望月中学校を訪問させていただきました。中学校に到着するとグラウンドや体育館で元気に部活動をする子どもたちの姿が目に入りました。いつもの街頭補導活動の巡回では中学生に会う機会が少ないので、久しぶりに元気に活動する子どもたちを見たような気がします。学校内に入り、教頭先生と生徒指導の先生から生徒のようす、学校の概要等を伺いました。現在、生徒数は163名と聞き、私が通っていたころの半分以下の人数



で、部活動の数もだいぶ減っているようです。ですが、小学校1校から中学校に上がっているので皆仲が良く、トラブルがあまりないとのことでした。先生方は、ひと通り話をされた後で「生徒に希望を持たせて卒業をさせたい」とおっしゃっていました。情熱と愛情を持って教育をされている先生方に感謝いたします。

9月12日（金）

1班 (K・M) 記

巡回経路 大型スーパー → 駄菓子店 → 東児童館 → 大型スーパー

活動のようす

残暑が厳しい9月ですが、今日は雨が降り、9月本来の涼しい陽気になりました。雨天ということもあり、車で駄菓子屋に移動しました。つい先ほどまで子どもたちが来店していたようですが、我々が訪問した時には、子どもたちはすでに帰った後でした。オーナーさんから店の内容を聞いたところ「子どもたちにとって、第三の居場所のような存在でありたい」と語っており、この言葉が心に残りました。その後、東児童館に移動して元気な子どもたちに会いました。ドッジボールを楽しそうにやっている子ども、上手にピアノを弾いている子ども、職員の皆さんのが手作りした模型で遊んでいる子どもなど40人ほどがいました。普段は、50人ほどいるそうです。楽しそうに遊んでいる子どもの姿を見ると、元気が出ます。東児童館は、保育園や介護施設に囲まれ、環境の良さを感じました。帰りの途中、私立保育園の前を通りかかると、保育園の隣にある英会話教室の入口付近に、たくさんの子どもがおり、にぎわいを感じました。

9月16日（火）

13班 (T・M) 記

巡回経路 中込会館 → 横町公園 → 水上公園 → 平賀新町公園 → 佐久城山児童館 → 佐久総合運動公園 → カラオケ店 → 中込会館

活動のようす

中込第1保育園と中込第2保育園が統合される「新中込保育園」の新築工事現場を見てからスタートしました。いくつかの公園を訪問しましたが、どの公園にも人影はありませんでした。佐久城山児童館では、館長さんに対応していただきました。「佐久城山児童館は市内にある児童館の中で、利用する児童数が多い児童館の一つで、今日も140～150人の児童が来館している」とのことでした。また、児童館の屋内・屋外に多くの児童が過ごしており、建物の裏にある広いグラウンドにも数人の女子児童がサッカーをやって楽しんでいました。カラオケ店では、高校生のグループが多く利用しているそうです。未成年者の利用については、時間による入場の制限を設け、青少年の健全育成に配慮していることを店員さんからお聞きしました。

9月17日（水）

17班（I・S）記

巡回経路

臼田警部交番 → 下の宮公園 → 生涯学習センター → 野沢多目的広場

活動のようす

9月中旬なのに最高気温が34°Cという真夏のような陽気の中、巡回を行いました。下の宮神社（公園）では、未就学児とその母親と思われる方が草むしりをしてくださっていました。臼田地区に住んでいながら、近くにある「生涯学習センター」・「野沢多目的広場」をうかがったことがなかったので、専門補導委員に案内していただきました。生涯学習センターの1階にある「つどいの広場」には、子どもや親子連れ、お年寄りの方まで50人くらいが利用しており、2階の「学習室」には、中・高校生15人ほどが勉強・ゲーム・読書とそれぞれ寬いでいました。エアコンが程よく効いていて、熱中症の心配もなく、とても良い施設だと思いました。プレオープンした野沢多目的広場では、「人工芝エリア」で10人くらいがフットサル、「落書きウォール」で2組の親子、「すべり坂コーナー」で20人くらいが楽しそうに利用していました。暑い日でも夕方になると秋風が吹いて、放課後の遊び場として最高の場所です。いろいろな禁止事項があるようですが、禁止事項を守らないなどの問題もあるそうです。安全な場所として、本オープンして欲しいと思いました。私の感想ですが、臼田地区にもこのような場所が欲しいと思いました。



9月18日（木）

10班（H・H）記

巡回経路

生涯学習センター → 東田公園 → 原公園 → 城山公園
→ 成知公園 → 成田公園 → 橋場公園 → 野沢多目的広場

活動のようす

昼過ぎ、横殴りの豪雨であったが、巡回時刻には、どんよりした空模様。生涯学習センター2階スペースには2名。つどいの広場には、7名ほどの児童。ドリル帳に向かう姿や、小さな画面に3名が覗き込みゲームに興じていた。東田公園は人影なし。原公園には、園児親子と思われる3組の姿。成知公園では、水たまりの上のブランコに6名の児童が靴を水浸しにしながらも遊んでいた。中には、買い物袋で靴を覆う知恵者の姿。また、ドリフトしながら自転車を止めるテクニックを見せる子。こちらから「いやなことは、あるかい」と声をかけると「ないよ」との返事。他のひとりの子は「宿題」と答えた。また、学校から一目散に帰ってゲームをしたいのではないかと聞くと「ゲームの時間が決まっているので、17時までここで遊ぶ」とのこと。橋場公園では、4歳園児と母親の姿。以前、会ったことがあるよう「また会った」とニコニコと元気に話しかけてくれた園児。ゲータッチをしてその場を後にした。野沢多目的広場では、自転車が10台ほど駐輪。人口芝では、5名ほどの女子児童が素足で遊んでいた。今回の巡回では、明るく元気に活動する子どもたちの姿が印象に残った。

9月22日（月）

15班（I・K）記

巡回経路

中込公民館 → 佐太夫町公園 → 横町公園 → 水上公園
→ 平賀新町公園 → 佐久城山児童館 → 成田公園 → 成知公園

活動のようす

佐太夫町公園、横町公園、水上公園、平賀新町公園と回ったが、公園利用者はいなかつた。どの公園も草が伸びており、草刈りの手入れが必要。その後、佐久城山児童館に行き、子どもたちの元気な姿を見た。遊戯室では、バスケットボールをしている子、懐かしい紙鉄砲で遊んでいる子らが元気よく体を動かしていた。バスケットボール、一輪車、ドッジボール、ピアノ等があるので、時間を区切り対応しているとのこと。図書室には本を読む子、テレビを観る子、思い思いに行動している。職員の方に聞くと、毎日、140人ぐらいが利用し、また、バス通学の子らは学校で過ごしているとのことだった(児童館にいるとバスに乗り遅れることがあるため)。職員たちは、迎えが来ると、レシーバーで「〇〇さん、迎えにきました」と館内の職員に連絡し、子どもに迎えが来たことを知らせ、帰宅の準備をさせるといったチームワークの良さに感心させられた。建物自体が狭いので、もう少し広げて欲しいとの声も聞く。時間も午後7時までだが、都合で遅くなることも多々あるそうだ。子どもたちが帰ったあと、片付けをしてから帰宅するので遅くなるとのこと。感謝しかない。成知公園では、女子高校生2名がいた。声かけをしたこの公園は、昔グラウンドだったことを話すと「知らなかった」と返された。10名ほどの児童が自転車、エアーガンで遊んでおり、エアーガンで遊ぶ子に「人に向けては絶対にダメ」と話すと、素直に「はい」と返事をした。午後5時近かったので親が「そろそろ帰るよ」と迎えにきた。日も短くなり、寒くなってくる時期だが元気に成長して欲しいと願っている。

9月24日(水)

3班(I・S)記

巡回経路 大型ゲームセンター → ネットカフェ → ゲームセンター
→ 曽根公園 → 仙禄湖公園 → 久保田公園 → 小田井児童館

活動のようす

大型ゲームセンターでは、大人数人と子ども連れの親子数組がゲームを楽しんでいました。ネットカフェでは、お客様はおらず静かでした。近くのゲームセンターも時間帯のせいか誰もいませんでした。各公園も人の姿をみることはませんでした。小田井児童館では、十数人の児童が迎えを待っていました。一陣が帰った後なので少ない人数とのことでした。児童らは、本を読んだり、ハロウィンの飾りを作ったり、カードゲーム、体育館でボール遊びをするなどおのれの楽しんでいました。天気も良く、何ごともない平穏無事な巡回でした。

9月25日(木)

9班(H・H)記

巡回経路 生涯学習センター → 南部交番 → 鍛冶屋公園 → 高柳公園
→ 東田公園 → 取出町諏訪神社 → 取出町ふれあい公園
→ 原公園 → 城山公園 → 生涯学習センター

活動のようす

小雨の混じる中での巡回活動でした。南部交番では、勤務警察官から南部交番の管轄区域を説明していただき、当地区では、非行少年や不良行為少年は少なく、落ち着いている旨うかがいました。また、電話による詐欺対策の周知に注力しているとのことでした。国際電話利用休止申し込みが無料でできると教えていただきました。鍛冶屋公園・高柳公園・東田公園・取出町諏訪神社・取出町ふれあい公園・原公園では、利用者は見当たりま

せんでした。城山公園では、中学生4名と小学生5名が元気に走り回っていました。中学生からは、部活動のようすなどを聞き、けがをしないように気をつけて頑張るように話しました。小学生にも公園内で張り切りすぎて、けがをしないで時間になつたら帰宅するよう話しました。

9月25日(木)

12班(S・M)記

巡回経路 生涯学習センター → 野沢多目的広場 → 野沢児童館
→ ビデオレンタル店

活動のようす

当初の計画では9班、12班で学校を訪問する予定であったが急遽変更となり、2班による巡回活動となつた。曇天で雨の心配もあったが、巡回中は雨が降ることはなかった。そうした天候のためか、多目的広場の公園内に子どもたちはまったくいなかつた。交流施設内には、5年生の女子児童2名が算数のプリントで勉強していた。専門補導委員と楽しそうに話しながら熱心に取り組んでいた。同じフロアの畳敷きスペースには、5年生の男子児童2名が前述の児童と同じ算数のプリント学習に取り組んでいた。サッカーのスポーツ少年団に入っているとのことで、ハキハキした受け答えが好印象であった。この施設近くのラウンドアバウトで、自転車に乗った少年が走っている自動車の前を急に横切つていきました。交通事故が起きる前にしっかりとルールを守る指導が必要であると感じた。野沢児童館では約70人の児童が館内外で元気に遊んでいた。館長さんによると、多い時は100人ほどの児童にスタッフが対応しているとのことであった。夕方の5時前後に狭い駐車場が親たちの迎えの自動車で大混雑となつていた。11月には子ども・子育て支援施設内に児童館が移転予定であるとかがつた。最後にビデオレンタル店を訪問した。ネット動画が全盛の時代となり、レンタルビデオの客はほとんどいない状況であった。品揃えもデジタル家電やカードゲームが占める割合が大きいと感じた。



9月26日(金)

学校訪問(東中学校)

7・8班(M・Y)記

概要

校長先生、教頭先生、生徒指導主事の先生に出席していただき、東中生徒のようすをお聞きしました。クラスは全学年2クラスで、生徒は男子99名・女子106名で、全校生徒は205名とのことでした。落ち着いた雰囲気の中で新年度のスタートが切れたようです。また、あいさつや授業態度が良好な生徒がほとんどで、清掃内容を充実させることで粘り強く取り組む力につなげていきたいとおっしゃっていました。大勢の生徒が部活動に参加し、熱心に取り組んでいるとのことでした。生徒指導上の大きな問題は発生していないが、SNSに関わる問題が若干みられるほか、不登校気味だった生徒が年度初めに頑張って登校する姿があったとかがいました。家庭との連携が重要なことで、今後も家庭との連携を図っていくとのことでした。地域とのつながりについては「自分たちが育つ地域を題材にし、自分たちが育つ・暮らしている地域に自分たちは何ができるのかを考え、探究的な学びを通して、地域貢献していく心を総合的な学習の時間で育てていく」を目標に学習

を進めていきたいとのことでした。最後に「地域の方にお願い」として「自転車の二人乗り」や「ヘルメット未着用」など生命にかかわる問題行動を見たときだけでなく、生徒を育てるという意味で、良いあいさつができたなど良かった点もお知らせいただけたとありがたいとおっしゃっていました。

9月29日（月）

4班（W・T）記

巡回経路　浅間会館 → 近津南公園 → 佐久平浅間児童館 → ねむの木公園
→ 市民交流ひろば → ミレニアムパーク

活動のようす

当日、中学校は振替休日、小学校は14時下校のため近津南公園には小・中学生はいなかった。見回ったどの公園もゴミはなくきれいだった。佐久平浅間児童館もこの日は児童が少ないと館長からうかがったが、それでも約110人の児童が利用していた。児童が多いにも関わらず館内は整理整頓が行き渡っていた。体育館を使用するために順番待ちをしている子どもたちもルールを守りながら落ち着いて待っていた。ねむの木公園は、日陰が多く15人ほどの小学生が友だちとゲームをしたり、野球をしたりして遊んでいた。市民交流ひろばの「つどいのひろば」にいた小学5年生に「暗くなるのが早いから気をつけて帰るよう」と声掛けをした。

9月30日（火）　学校訪問（浅科中学校）

18班（K・T）記

概要

浅科中学校訪問を実施しました。中学校からは校長先生、教頭先生に出席いただき、7名の会議となりました。少年センターから活動の概要の説明、自己紹介に続き、中学校から学校の概要、生徒の様子について説明がありました。学習については、家庭学習は1時間程度の生徒が多いようです。生徒指導上の大変な問題はないが、帰宅後のSNSの使用に関して、問題が散見されることでした。注意してほしい地域の場所としては、カラオケ店、図書館などがあげられましたが、巡回中に子どもたちがたむろしていて、問題を感じるような状況はありませんでした。不登校傾向の生徒も皆無ではないとのお話をしたが、昔ながらの少人数の学校にも問題を抱える生徒がいることに驚きました。部活動については、卓球やバドミントンの部活動がないのが不思議でしたが、生徒数が減っていることを考えると、今までのよう多く部活動を維持するのは大変であるとも感じました。1、2年生の部活動加入率が低いとかがいましたが、部活動の種類や地域移行の影響も関係しているのではないかと思いました。



古道をゆく

【熊野古道（くまのこどう）】

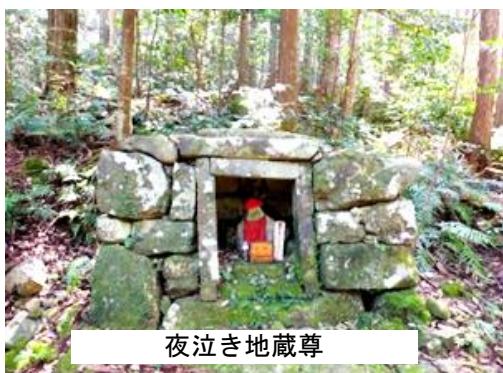
京都などから紀伊半島南部にある熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）へと通じる参詣道の総称。2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

司馬遼太郎の『街道をゆく』にあやかってこのタイトルをうたったが、少々大げさである。9月の中頃、思い立って熊野古道を訪ねることにした。

「熊野古道」・・・予備知識はほぼなし。「那智の滝」聞いたことがある。「伊勢」の近く。紀伊半島にあり、我が家からはかなり遠い。ところがもう一つ、この地域にある尾鷲（おわせ）という地名が、頭の片隅にこびりついていた。中学時代の社会科担当のK先生が、尾鷲の話をしてくれた。それは、尾鷲が全国有数の多雨地であるといった内容であったと記憶している。その時以来、尾鷲は是非訪れてみたい土地の上位にリストアップされていた。

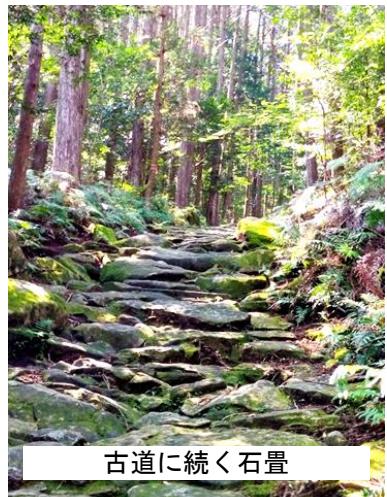
伊勢で泊を取って、旅路2日目。いよいよ熊野古道をゆく日を迎えた。熊野古道にはさまざまなルートがあり、数時間のコースから泊を伴うコースまで、旅程や体力に合わせてコースを選択する必要がある。今回は、熊野三山へ至る熊野古道の主要なルートである「中辺路（なかへち）」ではなく、熊野古道伊勢路を巡るコースを選んだ。理由は至って単純であり、① 数時間のコースであること、② 観光客が少ないこと、そして、③ 尾鷲に痕跡を残せること・・・というわけで、馬越峠（まごせとうげ）を巡る古道を歩くことに決めた。馬越峠は紀北町と尾鷲市の境界にある峠で、峠を越える古道は約2kmにわたり美しい石畳が続いているという。

紀北町の道の駅海山（みやま）に車を停め、強烈に照りつける太陽を気にしながら馬越峠の登り口まで歩いた。この暑さの中を歩くことを想像すると期待も多少削がれる。登り口の標識は、気にしなければ見過ごしてしまいそうなほど実に質素だが、挑戦の意欲をかき立ててくれる佇まいである。軽い会釈をして、私達を追い越していく男性は、腰にクマよけの鈴を付けていた。クマの出没があるのだろうか。熊野というくらいだから、クマがいても不思議ではないのだが、少し不安になった。



夜泣き地蔵尊

美しいヒノキの林間を貫く石畳の道を歩き始めた。登坂道は最初がつらいことはよく知っている。息を切らしながらしばらく歩くと、道脇に石積みの小さな祠が目に入った。「夜泣き地蔵尊」とは何とも不思議な名前だが、かつては旅人の無事を祈る地蔵があったとされる。やがて地区の人々が子どもの夜泣き封じを祈って「夜泣き地蔵」と呼ぶようになったと解説されていた。よく見ると地蔵の前には真新しい哺乳瓶が供えられていて、連れと顔を見合わせ相好を崩した。聞こえてくるのは小川のせせらぎと小鳥のさえずり。それにしても人けのない古道である。ようやく歩きに慣れてきたころ、トレンディングウェアの女性が勢いよく下ってきた。地元の方で、定期的にこの峠道を往復していると話してくれた。あと30分ほどすると峠であると聞いて力がわいてきた。この地はさすがに全国有数の多雨地域であ



古道に続く石畳

ることもあって、清流の流れる沢をしばしば目にした。昔の旅人は清流の冷たい水で喉を潤し、再び旅路を進めたであろうと想像すると、今こうして時を経て、同じ道を歩き呼吸している自分が、貴重なタイムトラベルをしていると感じられるのである。ところで、この清流にかかる巨大な一枚岩はどうだろう。人々の手によって構築されたものに違いないのだが、古人の偉業にただただ感嘆するばかりであった。



清流にかかる巨石の石橋

ボランティアで古道の整備をする方々に出会った。関西弁の女性に長野県から来たことを伝えると、驚いたようすで、この地を訪れてくれたことに感謝された。こちらも恐縮して活動の労苦をねぎらった。今でも多くの人々の献身的な努力により古道が維持されていることを知った。しばらく歩いて、道端の大きな石に腰かけて休んだ。石畳をながめながら、往時の旅人の姿を思い浮かべてみた。石の表面は角が削れて丸みを帯びている。多雨のこの地域で、旅人たちがぬかるみに足を取られぬよう、膨大な時間とエネルギーを費やして築かれたこの古道に驚嘆と畏敬の念を抱かずにはいられない。この石畳は、多くの旅人を聖地に導いた。

登り始めて1時間ほどで馬越峠へ到着した。峠には誰もおらず、時折爽やかな風が頬をなでた。なんともいえぬ充実感と幸福感に包まれた。ベンチに座って絶景を楽しんだ。木々の間から尾鷲の町並みを望むことができる。峠には江戸末期の俳人可涼園桃乙(かりょうえんとういつ)の句碑が建っている。「夜は花の上に音あり山の水」と刻まれている。句碑は嘉永7年(1854年)、桃乙の尾鷲地方の弟子達が可涼園桃乙を偲んで建立したものであると記されていた。1854年といえば、日米和親条約が締結され、日本の鎖国が終わった年である。激動の日本史の中にあっても洒脱な精神を持ち続けた往時の歌人達に尊敬の念が沸き立った。「くつはむし道に這いでよ馬越坂」(馬越坂にて 桃乙)。峠を南に下れば尾鷲である。誠に残念ではあるが、今回は峠越えを断念し、もと来た道を引き返すことにした。



馬越峠の標識

熊野古道世界遺産の正式名称は「紀伊山地の霊場と参詣道」である。この地を訪れてみると、広大な山地形状に圧倒される。古来より霊場として崇拜の対象とされてきたことにも合点がいく。数時間の山行ではあったが、一足一足古道を踏みしめるたびに伝わる歴史や文化の重み、神聖な空気感をからだいっぱいに感じ、充実した時間を過ごせたことに感謝したい。(令和7年9月)

《お知らせ》必ずお読みください。

- 11月から巡回時間が午後3時30分から4時30分になります。なお、学校訪問は従来通り午後3時50分学校集合ですのでお間違いないようお願いします。
- 過日の理事会でご要望がありました街頭補導巡回日程表の印刷方法につきまして、事務局で検討させていただきました結果、今までどおり「各月の補導活動」の最終頁に載せさせて頂くこといたしました。なお、巡回日程表は2か月先の日程となっておりますのでご注意ください。
- 事務局では街頭補導参加者数を勘案して公用車を手配しております。つきましては、街頭補導活動に参加いただけない場合は、早めに事務局にご連絡ください。(TEL 0267-62-0671)